

ふじみサラダボール子育て情報



「資質と能力の育成」

平成29年11月8日号

板橋富士見幼稚園



子どもの能力は遊びから

大人になるにつれ、人間は、その資質と能力が人の価値を高めていきます。生活してきた体験や経験を通して得た知恵や知識は、物事を判断したり決定する時に「判断する元」として使われます。そのため、子どもの判断や考え方を早い時期から教え込み、知識を蓄えさせようとすることがあります。誰もが、一度は考える早期教育です。

しかし多くの実証的研究で、幼い頃に早期に「知識IQ」を教え込まされた子どもは、将来伸びないことが分かってきました。それは、「考えて判断する道筋」となる「多様な知識の幅」がなく、情報を単に記憶という手段を使って覚えるため、将来物事を判断する時に誤りやすいと言われます。

記憶は、確かに繰り返し教え込めば知識に置き換えることは出来ます。一つの情報を覚えることとなるので、他者より早く覚えたことで、知的な能力が高く見えるのです。残念ながら、小学生の中学年になると、遊び込んできた子どもに追い越されてしまうという結果が報告されています。



では、有能な力を身につける為には、何をしたら良いのでしょうか。

何よりも多様な体験や経験によって、「考える」という思考を巡らせる遊びを大切にすることです。特に、法則や理屈がわからない幼児期ほど有効です。柔軟な幼児期に体験や経験を積むことで蓄えた知恵や知識が、将来物事を正しく推論したり、判断したり、思考したりする「源」となるからです。

「どうしてだろう」「どうなっているのだろう」「どうしたらいいのかな」と考えを巡らせ、試行錯誤したり、自分で調べたり、積極的に疑問を大人に聞いて知ろうとしたりする能動的な行動へもつながります。

大人からすると遊びは無駄のように思うのですが、実は、遊びの中に潜む情緒や情動が子どもの思考を刺激し、思い巡らす力を後押ししているのです。

そのため、体験によって多様性が生まれ、その結果、多様な知恵が沢山蓄えられていきます。こうした遊びを幼児期にしっかり体験している子どもは、遊びの中で「物事の加減」を体得し、対人に対する柔軟な付き合い方を身につけ、情緒豊かな子どもに育つと言われます。ご家庭でも、思考を巡らす遊びを沢山体験させて上げて欲しいものですね。